



④合わせて134人が参加した新校舎見学会。参加者は、町職員らの誘導のもと、校舎内を巡りました。  
⑤新校舎の完成を祝うテープカットを(左から)畑澤教育長、渡邊町長、石川町議会議長、小玉五城目小学校長が行いました。

12・19日  
21日 五城目小新校舎見学会と竣工式を開催

12月19日、五城目小学校新校舎の見学会を開催しました。

見学会は、新型コロナウイルス感染症対策として参加者を町内の方に限定し、1回を20人程度のグループに分けるなどして実施。参加者からは、「窓からたくさん光が入ってきて、校舎内がとても明るい」「職員室から外の様子がよく見えるので安心」などの感想がありました。また、見学会の冒頭には、渡邊町長らが新校舎の完成を祝うテープカットを行いました。

12月21日には新校舎の竣工式を行い、渡邊町長が「地域に開かれた学校を目指し、新しい時代にふさわしい教育を展開していく」と式辞を述べ、新校舎の設計や工事を行った有限会社村田弘建築設計事務所と株式会社長谷駒組にそれぞれ感謝状を授与しました。

12・9日 美味しい“あきたこまち”コンテストで一関健次さんと小玉重博さんに表彰状

12月9日、県内の農家が生産したあきたこまちな味の競う「美味しい“あきたこまち”コンテスト」の表彰式が秋田市で開催され、一関健次さん(72歳・久保)が優秀賞を、小玉重博さん(71歳・西野)が優良賞を受賞しました。

コンテストには、81の個人・団体が出品し、品質評価や食味官能試験などの結果、12個人・団体に表彰状が贈られました。また、一関さんを含む、今回のコンテストで最優秀賞、優秀賞に輝いた5個人・団体のあきたこまちは「ザ・プレミアムファイブ」の名前で県内のスーパーや東京都内の百貨店で販売されています。



美味しい“あきたこまち”コンテストで優秀賞の一関さん④と、優良賞の小玉さん⑤。

12・17日 町の未来の姿を考える 五一中3年「町への提言」発表会

12月17日、朝市ふれあい館で、五城目第一中学校3年の「町への提言」発表会が行われました。

発表会では、生徒たちが6つのグループに分かれ、総合的な学習の時間に調査・取材活動を通して学んできたことを基に、未来の町がどのような姿であってほしいか、また、そのために町でどのような取り組みが必要かなど、それぞれ発表を行いました。

生徒たちからは、「様々な手段を用いて町の特産品などを広く発信することで、より多くの人に町の魅力を伝えられる」「町の食文化や伝統工芸品を生かし、たくさんの方が町を訪れるような取り組みを」などの意見がありました。



生徒たちは、今までの調査や取材などを基に、それぞれが思い描く町の未来を実現させるための取り組みなどを発表しました。

10・11日 「歌いたくなるさこんなに青いんだ」 荒川一滴(剛)さんが文部科学大臣賞

「第44回全日本川柳2020年秋田大会」の一般部門で、荒川一滴(本名・剛)さん(41歳・新畑町)の「歌う」の課題を詠んだ作品「歌いたくなるさこんなに青いんだ」が、最高賞となる文部科学大臣賞を受賞しました。

大会は、6月に秋田市で開催される予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により誌上大会に切り替えて10月に開催。3,273人が参加した一般の部では、「歌う」「重い」など7つの課題にそれぞれ1人2句ずつ投句し、その中から荒川さんの1句が最高賞に選ばれました。

この大会で県内の方が最高賞に選ばれるのは、荒川さんが初です。荒川さんは、「コロナの影響で『歌う』ことが制限される世の中ですが、どうしても歌いたくなる時の気持ちを表現しました。『青い』は、海や空、心などいろいろありますがあえて言い切らず、作品を見た方の想像におまかせしたことで、作品に深みが出たと思います。また、今回の受賞は、いつもご指導いただいている川柳すずむし吟社の皆様のおかげで、まさに“オールすずむし”で獲得した賞です。皆様には感謝の気持ちでいっぱいです」とお話ししていました。



荒川さんの作品が、最高賞となる文部科学大臣賞を受賞しました。

12・10日 草皆稔さんが厚生労働大臣表彰

12月10日、草皆稔さん(83歳・帝釈寺)が、戦没者遺族援護功労者として厚生労働大臣表彰を受けられました。

草皆さんは、平成5年から町遺族連合会理事を務め、平成16年からは同連合会会長として、地域遺族の親睦と団結を図り、遺族組織の強化に尽力されています。

また、平成16年からは、一般財団法人秋田県遺族連合会評議員・理事を、平成29年からは南秋田郡遺族連合会会長をそれぞれ務めるなど、戦没者遺族援護事業の推進に貢献されています。



戦没者遺族援護功労者として厚生労働大臣表彰を受けられた草皆さん④。渡邊町長⑤と武田副町長⑥に受賞を報告しました。

あきたふるさと手作りCM大賞で審査員特別賞を受賞!

11月22日、県立児童館で「第18回あきたふるさと手作りCM大賞審査会」が行われ、本町の作品が、出場した19市町村中4位に相当する「審査員特別賞」を受賞しました。本町の受賞は、最優秀賞に輝いた平成24年以来、8年ぶりとなります。

今回の作品には五城目小学校6年生全員が出演。児童一人ひとりが、町広報最終ページに連載している、「ごじょうめのわらしだ」作者の大石清美さんが描いた五城目朝市にちなんだイラストを手にし、みんなで五城目朝市の魅力を表現しました。

作品は、年間60本放映されるほか、町公式YouTubeチャンネルからもご覧いただけます。  
※CMの放映日時は、毎月の町広報の「町民カレンダー」に掲載します(1月放映分は23頁に掲載)。



今回の作品のひとコマ。五城目小6年生全員で五城目朝市の魅力を伝えました。



▶町公式YouTubeチャンネル  
今回の作品や過去の作品をご覧になれます(チャンネル名: Gojome Town、右のQRコードからもアクセスできます)。

